



「エンジョイパル日立館」は「板倉構法」という建築方法で建てられました。

パルシステム茨城の日立エリアで組合員活動の拠点として親しまれてきた「日立館」。老朽化による建て直しで、「エンジョイパル日立館」として生まれ変わりました。被災地の復興を応援しようと宮城県南三陸町の木材を使用したこの施設は、活動する組合員のアイデアも反映した、人にも環境にも優しいつくりになっています。

南三陸町の木材を 組合員活動施設に使用

2015年7月27日、茨城県日立市末広町で「エンジョイパル日立館」の竣工式が行なわれました。パルシステム茨城の組合員・役職員のほか、建築・設計会社や南三陸町役場などから、約50人の関係者が出席し、施設の完成をお祝いしました。

「エンジョイパル日立館」は木造2階建て、1階50坪、2階30坪の組合員活動施設です。柱や梁のほかに、床や壁、屋根などにもスギとヒノキがふんだんに使われており、建築資材の約70%が東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町で生産された木材です。

築40年の「日立館」を建て直す際に、南三陸町の木材を使用することが決まったのは、エリア理事の稲毛明美さんいなげあけみから専務理事への「つぶやき」がきっかけでした。

「パルシステム茨城は、復興支援の一環として、11年9月から南三陸町を視察し、現地の方々と交流を重ねてきました。『日立館』を建て直すと聞いて、南三陸町の木材を使用してはどうか、と提案しました。木の温もりのある施設がいいね、

南三陸町の木材を使用した 組合員活動施設が完成

パルシステム茨城



2階にあるテーブルは組合員が仕上げました。



マネジメント推進課 課長
市村信一郎さん

子育て支援の場となる2階には、子どもたちが階段から転落しないようベビーゲートも。

と日立エリアの組合員と話をしてみましたし、少しでも復興のお役に立ちたいと思ったんです」と稲毛さんはそのときの想いを振り返ります。

この提案を受けて、パルシステム茨城は南三陸町の木材使用を決定。茨城県つくば市にある株式会社里山建築研究所^{※1}は、同町をはじめ被災地での木造の復興住宅の建設に力を入れていたことから、日立館の改築をお願いすることになりました。

組合員が愛着を持てる施設をつくる

「利用する皆さんに愛着を持つていただくためだったので、改築計画の段階から組合員も一緒に協議を行なっていました。実際に活動する方々の視点で要望を聞くことができたの

は良かったですね。看板やテーブルなどは組合員さんが色付けや塗装をして仕上げたんですよ」。パルシステム茨城・マネジメント推進課^{※2}の市村信一郎^{いちむらしんいちろう}さんはそう話します。

「エンジョイパル日立館」の2階は、子育て支援や福祉の活動で子どもたちやお年寄りが集まることを想定し、転倒しても衝撃が少ない、柔らかいスギの木を使用。塗料も万が一、子どもたちが床をなめても安全な天然素材を選びました。一方、1階は丈夫なヒノキを使用しているのが特徴です。また、災害が発生した場合の避難所としても利用できるように、太陽光発電設備と蓄電設備を設置しました。そして、天井に掲げられているのは手書きの鶴と亀の矢羽根^{やばね}。これは

は南三陸町の大工の皆さんが上棟のお祝いに気持ちを込めて制作し、パルシステム茨城へ贈呈されたものです。

木の良さを発信し復興を後押ししたい

竣工式に来賓として参加した南三陸町産業振興課参事の佐久間三津也^{みつや}さんは、「南三陸というところ、まず漁業を思い浮かべる方が多いと思いますが、町の面積の7割〜8割は豊かな森林なのです。町でも森林資源の活用は、地域復興につながると思います。地元の木材がすてきな建物になってうれいそうですね。南三陸町

陸町の木材を使った住宅建築の案内を組合員に配布する予定だといっています。

「家はとても高価な買い物なので、すぐに復興に結び付くとは思いません。しかし、この施設から木の家の良さを発信して、一人でも多くの方に興味を持ってもらうことで復興を後押しできればと思っています」（市村さん）

南三陸町の皆さんとパルシステム茨城の組合員・役職員の想いが詰まった施設「エンジョイパル日立館」。被災地の森林資源を活用するとう、新しい復興支援の形を教えてくださいました。



左からエリア理事の青木恭代さん、稲毛明美さん、石垣則子さん。



南三陸町の大工さんから贈られた鶴の矢羽根。この裏には亀の矢羽根が飾られています。

では復興に向け行政と町民が丸となって頑張っています。その姿をぜひ見守っていただきたい。そして今後も足を運んで交流してもらいたいです」と話してくれました。今後、パルシステム茨城では、(株)里山建築研究所と連携して、南三

継続した支援活動で被災地に寄り添う

パルシステム茨城
理事長 石川弓子^{いしかわゆまこ}さん



パルシステム茨城は、震災直後から茨城県生協連と連携して福島県や宮城県にボランティアを派遣し、生活物資の搬送やがれきの撤去などに取り組みました。その後も福島の子ども保養プロジェクトや被災地視察を行なっています。

「エンジョイパル日立館」の建設にあたっては、南三陸町への視察交流を重ねました。空いている日がないくらい活発に組合員活動が行なわれるような、末永く愛される施設になってほしいですね。

現在、パルシステム茨城では、組合員の皆さんと一緒に被災地で体験と交流を行なう「南三陸サポーターズ倶楽部」を構築中です。いち早く支援活動に取り組んだ生協だからこそ、被災地が復興するまで寄り添い続けていきます。

※1 里山資源を生かした家づくりを行なっている。同社の主宰で筑波大学教授の安藤邦廣さんは、国産の木材を多用する「板倉構法」を規格化した。

※2 棟上げまでの工事が無事に終了したことを感謝する上棟式を行なうときに飾るもの。